

## 2026年4月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2025年9月10日

上場会社名 株式会社 テンポスホールディングス  
コード番号 2751 URL <http://www.tenpos.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森下 篤史  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役グループ管理部長 (氏名) 森下 和光  
配当支払開始予定日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有 WEB開催

上場取引所 東  
TEL 03-3736-0319

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年4月期第1四半期の連結業績(2025年5月1日～2025年7月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年4月期第1四半期	11,978	4.5	715	10.9	774	9.9	496	33.7
2025年4月期第1四半期	11,461	37.6	803	9.3	860	6.8	749	43.9

(注) 包括利益 2026年4月期第1四半期 516百万円 (42.2%) 2025年4月期第1四半期 894百万円 (65.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年4月期第1四半期	41.30	40.64
2025年4月期第1四半期	62.42	61.41

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年4月期第1四半期	27,274	17,642	59.5	1,347.98
2025年4月期	26,219	17,222	60.4	1,316.68

(参考) 自己資本 2026年4月期第1四半期 16,222百万円 2025年4月期 15,839百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年4月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年4月期		0.00		9.00	9.00
2026年4月期(予想)		0.00		9.00	9.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2026年4月期の連結業績予想(2025年5月1日～2026年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	27,600	19.7	1,710	15.8	1,810	14.3	1,060	10.9	88.24
通期	57,700	22.6	3,440	28.9	3,650	27.2	2,140	3.6	177.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 1 社 (社名) 株式会社サンライズサービス、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年4月期1Q	14,314,800 株	2025年4月期	14,314,800 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2026年4月期1Q	2,280,071 株	2025年4月期	2,285,071 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2026年4月期1Q	12,032,015 株	2025年4月期1Q	12,002,923 株
------------	--------------	------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想のご利用に当たっては、添付資料4ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループは外食の事業分野で、厨房機器販売やサービスなど外食周辺事業で1,000億円、株式会社あさくまやヤマトサカナ株式会社をはじめとした飲食事業で500億円の計1,500億円の規模にすることを目指しています。さらに、外食以外の新分野でも500億円の売上を見据え、グループ全体で2,000億円企業への成長を図っています。その布石として、2024年8月にはミャンマーに「テンポスマンマー日本語学校」を開校し、飲食店や「テンポスバスターズ」の海外進出も虎視眈々と狙っております。

## ■連結業績の結果

当第1四半期会計期間の売上高は119億78百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は7億15百万円（同10.9%減）、経常利益7億74百万円（同9.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億96百万円（同33.7%減）となりました。成長戦略として掲げるM&Aの実施や新規事業の確立に向けた人材投資を進めておりますが、投資の効果がまだ利益には結びつかず、成長痛を感じる結果となりました。

セグメント名	売上高( )内は前年同期比)	セグメント利益( )内は前年同期比)
物販事業	72億45百万円 (6.3%増)	6億17百万円 (9.1%減)
情報・サービス事業	10億22百万円 (2.2%減)	△22百万円 (前年同期83百万円)
飲食事業	41億45百万円 (8.7%増)	1億55百万円 (80.1%増)

## ■物販事業の業績結果

売上高72億45百万円（前年同期比6.3%増）、セグメント利益6億17百万円（同9.1%減）

## 〈株式会社テンポスバスターズの業績結果〉

売上高52億13百万円（前年同期比 1.3%増） 営業利益5億43百万円（同15.1%減）

当社グループの売上高の約40%を占める、厨房機器の店頭販売を担う株式会社テンポスバスターズは増収減益となりました。成長の勢いが鈍化しており、事業の進め方を見直す局面に差し掛かっていると認識しています。成長戦略に新規出店を掲げていることから、直営店舗数は前第1四半期末から9店舗増え67店舗となりましたが、既存店の客数減少が課題となっております。

内閣府の統計によると、2040年には労働人口が約20%減少すると予測されており、既にその影響は飲食店数の減少として表れています。また、外食市場全体の売上高は前年比8%増と拡大しているものの、成長を牽引しているのは大手外食企業で、中小規模の飲食店の売上高は減少傾向にあります。主要顧客が中小飲食店である当社はその影響を受けており、当第1四半期会計期間の既存店の客数は16万1,569人（前年同期比4.6%減）、特に新店オープン顧客は13.2%減少しました。さらに、成長戦略の柱としている新店オープン顧客の客単価も、既存店において前年同期比0.2%増にとどまりました。これまで全販売員（約250名）を対象に週5時間、年間240時間のコンサルタントの育成研修を行うことで、客単価の底上げに一定の成果をあげてきましたが、全販売員をコンサル化するのは無理だと判断し、今後は育成メンバーを選抜し、教育効果を高めていきます。コンサル化しない社員については、見込み客の案件拡大に直結する実践的な研修を行い、営業力を高めることで、新店オープン顧客の成約率を上げ、受注数の拡大を図ります。しかし、コンサルの知識を身に付けることで、物販の提案の幅が広がるのも事実のため、今後の成果を見極めながら、教育の在り方を柔軟に変えていきます。

なお、今後も客数減少が続くことが予想されますが、当面は減少の曲線は緩やかであることから、国内の基盤をがっちり整えるために急ピッチで新規出店を行いシェア拡大を図ります。そして現在77店舗（FC含む）から全国300店舗体制を構築してまいります。前期には、人口10万人規模の小都市への出店にチャレンジし、早期黒字化を実現しました。従来は黒字化には人口30万人以上の規模が必要だと考えていましたが、この成功により出店エリアの選択が大きく広がりました。既存ビジネスは、マーケットが縮小していく中で、上手に商売替えをして売上拡大を図ってまいります。

## 〈その他事業会社の業績結果〉

キッチンテクノ株式会社（大手外食・スーパーマーケット企業向け直販営業）では、大手外食向けの販売が堅調に推移しましたが、営業強化に向けた人件費増を吸収できず減益となりました。営業研修を見直して即戦力化を進めております。株式会社テンポスドットコム（通販事業）では、自社サイトおよびモール店舗において独自開発の販売管理ツールを活用し、日々の市場変動に即座に対応したダイナミックプライシングを実施し、その結果、受注数・売上高ともに増加しました。また、念願の「テンポス法人ドットコム」を立ち上げ、2025年5月から新規会員開拓を開始し、責任者がヒューマンながら電話営業に取り組んだ結果、初月から1,604社の登録を獲得することができました。2025年7月末時点では累計登録社数は6,428社に達し、第2四半期会計期間中には1万社突破を見込むなど、今後の成長に大きな手応えを感じています。株式会社テンポスバスターズは、前述した通りマーケットの縮小の中で商売替えに苦しんでおり、営業利益は15.1%減となりました。

会社名	売上高( )内は前年同期比)	営業利益( )内は前年同期比)
株式会社テンポスバスターズ	52億13百万円 (1.3%増)	5億43百万円 (15.1%減)
キッチンテクノ株式会社	10億59百万円 (33.5%増)	26百万円 (20.1%減)
株式会社テンポスドットコム	11億61百万円 (14.6%増)	14百万円 (22.1%増)

## ■飲食事業の業績結果

売上高41億45百万円（前年同期比8.7%増）、セグメント利益1億55百万円（同80.1%増）

ステーキレストランを展開する株式会社あさくまは、2025年4月末で月次売上高は28カ月連続で前年を超えました。充実のサラダバー45品や、ステーキのフェアメニューの強化が功を奏しています。回転寿司を展開するヤマトサカナ株式会社は、外食事業及び観光事業が好調でした。特に観光事業は自社運営する観光施設「房総の駅とみうら」にて、体験型イベント等を強化したことで、観光施設の売上高は3億75百万円（同21.8%増）と好調な結果となりました。やり方次第で、まだまだ伸ばせますし、今後は全国の道の駅の運営受託も手掛けてまいります。

飲食事業のM&Aにおいては、2025年7月に宅配寿司を手掛ける株式会社サンライズサービス（当社100%子会社）と、居酒屋「八剣伝」などを展開するマルシェ株式会社（当社持分法適用会社）がグループに加わりました。これにより、共同仕入れによる原価低減や販促ノウハウの共有を通じ、さらなる集客力の強化を図ってまいります。

会社名	売上高( )内は前年同期比)	営業利益( )内は前年同期比)
株式会社あさくま	22億92百万円 (7.7%増)	1億11百万円 (34.6%増)
ヤマトサカナ株式会社	18億92百万円 (11.0%増)	1億3百万円 (158.2%増)

## ■情報サービス事業の業績結果

売上高10億22百万円（前年同期比2.2%減）セグメント損失22百万円（前年同期はセグメント利益63百万円）

人材紹介・派遣・請負事業を行う株式会社ディースパークは、前年に吸収合併した旧東海運輸（現：埼玉事業所）の売上が期首から計上され、請負事業が業績を牽引しました。一方で海外人材紹介事業ではモンゴル、タイ、インドネシア、ネパールにおける日本語学校の開校に向けた活動など、事業拡大に向けて積極的な人員投資を行いました。その結果、当第1四半期会計期間は赤字計上となりましたが、これは事業拡大に向けた前向き投資による結果であり、中長期的には収益拡大につながるものと見込んでいます。株式会社テンポスフードプレイスは、飲食店の事業承継事業が好調となり、株式会社テンポスフィナンシャルトラストでは不動産事業・ファイナンス事業それぞれの売上を伸ばしましたが、それぞれ販管費増を吸収するまでには至りませんでした。内装工事を手掛ける株式会社スタジオテンポスは、小規模飲食店の出店抑制の影響を受けて減収減益、POSレジ・テーブルオーダーシステム販売を行う株式会社テンポス情報館は、売上利益ともに牽引する立場でありながら、中小企業向けIT導入補助金の採択率が前期の半分にとどまったことに加え、飲食店の投資抑制に対して効果的な手が打てず減収減益という情けない結果となりました。

会社名	売上高( )内は前年同期比)	営業利益( )内は前年同期比)
株式会社スタジオテンポス	1億40百万円 (47.1%減)	△7百万円 (前年同期5百万円)
株式会社テンポス情報館	2億8百万円 (12.6%減)	3百万円 (88.8%減)
株式会社 テンポスフィナンシャルトラスト	1億33百万円 (11.9%増)	△4百万円 (前年同期17百万円)
株式会社ディースパーク	4億30百万円 (13.6%増)	△12百万円 (前年同期3百万円)
株式会社テンポスフードプレイス	1億13百万円 (138.7%増)	△1百万円 (前年同期0百万円)

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は272億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億55百万円増加しました。その内容は、以下のとおりであります。

### (流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は171億47百万円となり、前連結会計年度末に比べて7億94百万円減少いたしました。この主因は現金及び預金が13億66百万円減少したことと、棚卸資産が4億16百万円増加したことによります。

### (固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は101億27百万円となり、前連結会計年度末に比べて18億49百万円増加いたしました。この主因はのれんが10億53百万円、関係会社株式が7億47百万円増加したことによります。

### (流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は73億93百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億97百万円増加いたしました。この主因は契約負債が4億41百万円増加したことと、未払法人税等が3億9百万円減少したことによります。

### (固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は22億38百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億37百万円増加いたしました。この主因は資産除去債務が1億18百万円増加したことによります。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は176億42百万円となり、前連結会計年度末に比べて4億20百万円増加いたしました。この主因は利益剰余金が3億95百万円増加したことによります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想に関しましては、売上、利益とも概ね計画通り推移しており、2025年7月22日発表の予想数値の修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,617	8,251
受取手形及び売掛金	2,606	2,649
棚卸資産	5,383	5,800
その他	336	449
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	17,941	17,147
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,746	1,886
機械装置及び運搬具（純額）	169	201
土地	104	138
その他（純額）	264	353
有形固定資産合計	2,285	2,580
無形固定資産		
のれん	1,071	2,125
その他	119	143
無形固定資産合計	1,190	2,269
投資その他の資産		
投資有価証券	1,161	821
関係会社株式	1,505	2,253
長期貸付金	345	343
敷金及び保証金	1,191	1,305
繰延税金資産	790	745
その他	183	182
貸倒引当金	△375	△374
投資その他の資産合計	4,801	5,278
固定資産合計	8,278	10,127
資産合計	26,219	27,274
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,059	3,010
短期借入金	2	2
1年内返済予定の長期借入金	314	314
未払法人税等	491	182
株主優待引当金	242	182
契約負債	576	1,018
賞与引当金	382	323
製品保証引当金	29	44
その他	1,795	2,314
流動負債合計	6,895	7,393
固定負債		
長期借入金	1,640	1,607
退職給付に係る負債	5	5
資産除去債務	250	369
その他	204	256
固定負債合計	2,101	2,238
負債合計	8,996	9,631

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	499	499
利益剰余金	16,239	16,635
自己株式	△957	△955
株主資本合計	15,781	16,178
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	57	43
その他の包括利益累計額合計	57	43
新株予約権	209	211
非支配株主持分	1,174	1,208
純資産合計	17,222	17,642
負債純資産合計	26,219	27,274

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)
売上高	11,461	11,978
売上原価	7,028	7,331
売上総利益	4,432	4,646
販売費及び一般管理費	3,629	3,931
営業利益	803	715
営業外収益		
受取利息	0	3
受取配当金	1	15
持分法による投資利益	39	36
貸倒引当金戻入額	2	0
その他	16	9
営業外収益合計	60	65
営業外費用		
支払利息	2	3
その他	1	2
営業外費用合計	3	6
経常利益	860	774
特別利益		
固定資産売却益	12	0
負ののれん発生益	5	-
特別利益合計	17	0
特別損失		
その他	1	2
特別損失合計	1	2
税金等調整前四半期純利益	876	772
法人税、住民税及び事業税	222	180
法人税等調整額	△258	59
法人税等合計	△36	240
四半期純利益	912	531
非支配株主に帰属する四半期純利益	163	34
親会社株主に帰属する四半期純利益	749	496

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)
四半期純利益	912	531
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△17	△14
その他の包括利益合計	△17	△14
四半期包括利益	894	516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	731	482
非支配株主に係る四半期包括利益	163	34

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2024年5月1日 至 2024年7月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年6月12日 取締役会	普通株式	108	9	2024年4月30日	2024年7月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年6月11日 取締役会	普通株式	108	9	2025年4月30日	2025年7月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年5月1日 至 2024年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 上額 (注)
	物販事業	情報・サービス 事業	飲食事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	6,757	893	3,809	11,461	—	11,461
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	6,757	893	3,809	11,461	—	11,461
セグメント間の内部 売上高又は振替高	56	152	3	212	△212	—
計	6,814	1,045	3,812	11,673	△212	11,461
セグメント利益	678	63	86	828	△25	803

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。なお、調整額△25百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△25百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 上額 (注)
	物販事業	情報・サービス 事業	飲食事業	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	7,095	738	4,144	11,978	—	11,978
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	7,095	738	4,144	11,978	—	11,978
セグメント間の内部 売上高又は振替高	150	284	0	435	△435	—
計	7,245	1,022	4,145	12,413	△435	11,978
セグメント利益	617	△22	155	749	△34	715

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。なお、調整額△34百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△34百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年5月1日 至 2024年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年5月1日 至 2025年7月31日)
減価償却費	79百万円	82百万円
のれんの償却額	31百万円	31百万円